

前橋市国際交流協会会報

MAEBASHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

令和4年8月29日発行

Vol.63

発行：前橋市国際交流協会 編集責任者：田村正男総務部会長 ホームページ：<http://miajapan.sakura.ne.jp>
事務局：前橋市本町一丁目5-2 前橋市職員研修会館1階 電話：027-243-7788 FAX：027-226-1561

コロナ収束後に向けて

群馬経済研究所 常務理事

茂木 和 拡

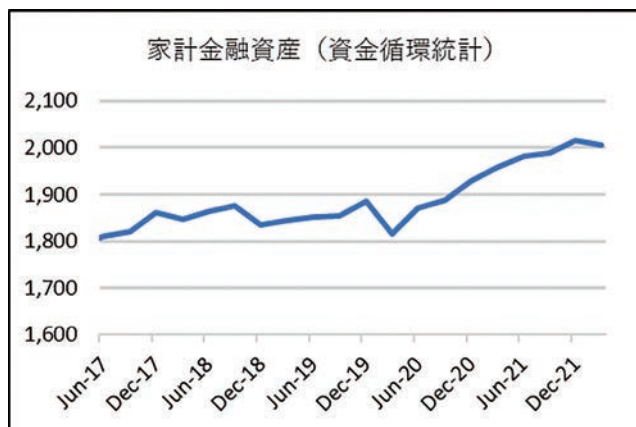


2020年1月に始まった新型コロナウイルスの世界的蔓延は、発生から2年半が経過し更なる長期化の様相をみせています。折しも米中間では貿易摩擦やハイテク分野での主導権争いが激化し、世界が脱炭素化に向けた動きを加速させる中で、2022年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が発生するなど、世界を揺るがす大きな変動が起きている。また、世界的な資源/食料価格の高騰に加えて、欧米主要国と日本との金融政策の違いによる円安の影響もあって、日本では輸入依存度の高い分野を中心に物価の上昇圧力が高まっています。

特にコロナ禍の長期化は県内経済にも甚大な影響を及ぼしており、人々の行動様式や潜在意識にも大きな変化をもたらしました。飲食・宿泊・観光といったサービス産業は人流抑制の影響をまともに受け、団体客の激減やインバウンド需要の消失など厳しい状況に置かれました。一方で、人流抑制に対応する手段としてオンラインの活用が飛躍的に進み、遠く離れた場所においても必要な交流が簡単に行える環境が整備されました。確かに便利になりましたが、逆に言うと、わざわざ出かけなくても用が足りるということを人々は知ってしまったという側面もあるのではないかと思います。

こうした状況下で、コロナ禍が収束したら今まで行けなかった旅行に行きたいと考えている方も多いことと思います。ペントアップ需要とかりベンジ消費と言われています。そこで、どの程度の潜在需要があるのかをデータから探ってみたいと思います。お示ししたグラフは、日本銀行が公表している「資金循環統計」というデータをもとに、家計金融資産の推移を5年前からグラフ化したものです。

家計金融資産とは、家計が保有している金融資産残高のことで、一部に純粋な個人金融資産ではないものも



出所：日本銀行主要時系列統計データ表より当研究所で加工。
単位：兆円

含まれていますが、概ねの傾向を示したものと言えます。これを見ると、コロナ禍以降は残高の増加が顕著になっており、直近では2000兆円を超えていることがわかります。一つの統計データからの推測に過ぎませんが、潜在的な消費ポテンシャルは相当大きいと思われます。

エネルギー価格高騰や人手不足によるコスト上昇圧力がかかる中で、こうした潜在需要をいかに取り込んでいくかが、これからの課題となります。日本では長くデフレマインドが続いており、どこにでもあるものは価格転嫁が難しいのではないかと思います。簡単なことではありませんが、多少高くても消費者に代価を支払ってもらえるような差別化を図りながら、大きな潜在需要を取り込んでいくことも必要かと思われます。

国外に目を向けてみても、潜在消費需要は相応にあると思われます。一日も早いコロナ禍の収束を願いながら、外国の方々に面前で日本の新たな魅力を体感してもらえるときが来ることを期待しています。

予算決算・事業計画、役員改選などを承認

令和4年度前橋市国際交流協会定期総会は、5月21日（土）に書面により開催されました。定期総会と併せて開催される理事・評議員会も定期総会と同様、書面による開催とさせていただきます。また、会員皆様の委任状での対応につきましては、ご協力に感謝申し上げます。

議事では、「令和3年度事業報告・会計決算報告」「令和4年度役員改選」「令和4年度事業計画・会計予算（案）」が書面により審議され、承認、議決されました。

令和4年度の協会事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、事業展開を考えていかなくはない状況ではありますが、「多文化共生」を基軸に在住外国人への支援や国際交流の推進に対する取り組みなどが求められています。こうしたことから、会員、ボランティア、各種団体など一層の連携を図り、協会事業の充実とともに、市民の国際意識の高揚や外国人が安心・安全に暮らせるまちづくりなどに取り組んでまいります。

なお、特別講演会は今年度も中止とさせていただきます。

主に次の重点項目を中心に各種事業を推進します。

【令和4年度の重点項目】

- ①在住外国人の安心な暮らしや日本語学習を支援
- ②市民の国際交流を推進
- ③多文化共生事業の支援
- ④友好都市との交流事業の協力や推進
- ⑤協会運営事業の充実

□役員の改選

総会で令和4年度役員改選が承認されました。令和3年度に団体の役員改選や人事異動等で新たに役員として就任していただきました新役員は次の皆様です。

（敬称略）

《新副会長》

戸塚 良明 前橋市副市長

《新理事》

初谷 桂吾 前橋商工会議所青年部副代表幹事

福井 謙一 前橋青年会議所理事長

《新評議員》

長谷川 健 群馬銀行執行役員本店営業部長

和佐田高久 東和銀行常務執行役員本店営業部長

松村 晃人 大胡地区代表

中嶋 政雄 群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課長

新井 剛 前橋市文化スポーツ観光部長

木村 理文 前橋市産業経済部長

《新顧問》

小曾根英明 前橋市議会議長

□令和3年度決算・令和4年度予算

《収入》（単位：円）

科 目	3 年度決算	4 年度予算
会 費 収 入	1,710,000	1,875,000
補 助 金	10,610,000	11,790,000
事 業 収 入	6,949,221	7,740,000
雑 収 入	10,169	14,880
繰 越 金	1,881,194	1,858,120
計	21,160,584	23,278,000

《支出》（単位：円）

科 目	3 年度決算	4 年度予算
会 議 費	19,265	93,000
協 会 運 営 費	12,362,611	14,077,000
事 業 費	6,920,588	8,108,000
予 備 費	0	1,000,000
計	19,302,464	23,278,000

ウクライナ避難民支援募金

前橋市国際交流協会では前橋市と連携してウクライナ避難民支援募金を受け入れています。この募金は、前橋市に避難してきたウクライナ避難民の方々への支援の財源となるものです。是非、ご協力ください。（募金箱は市役所に設置してあります。）

姉妹都市バーミングハム市との七夕交流事業（7月4日～10日）

【友好都市・姉妹都市】

アメリカアラバマ州バーミングハム市と前橋市が友好都市・姉妹都市となったきっかけは、1993年に前橋市の建設会社社長に、バーミングハム市から市内の日本庭園に茶室を建設して欲しいとの申し出があったことでした。そこから両市の交流が盛んになり、1998年に友好都市提携をし、さらには2017年に姉妹都市提携の調印をしました。

【いままでの交流】

バーミングハム市に茶室が建設され、前橋市長が釜開に招待されました。また、バーミングハム市の市長や日本庭園委員会会長などが来橋するなど友好都市としての礎を築いてきました。友好都市提携後も、スポーツや文化を通じての交流も盛んとなり、第1回前橋シティマラソンからバーミングハム市の選手の受け入れを行っています。この他にも、バーミングハム市高校生の受け入れや両市児童の絵画展の開催、前橋市からのだんべえ踊り団の訪問など交流を深めてまいりました。そして、両市は現在も姉妹都市として交流が続いているところであります。

【今回の七夕交流事業】

最近の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、両市の交流にも支障が生じてきました。実際に訪問して

の交流がなかなかできなくなっていました。

こうしたなか、両市の交流を盛り立てていこうと企画されたのが、今回の七夕交流事業です。姉妹都市提携の時にバーミングハム市で7月3日を「前橋の日」としたことから七夕まつりの期間に両市で同時に七夕飾りを作成しお互いの交流を深めていこうとするものです。

まず、両市の市民、学生や関係者に短冊に願い事を書いてもらい、それぞれの短冊を交換して飾り付けを行うのですが、アメリカからの願い事はデータで送ってもらい、それを前橋市で書き写すという作業をボランティアの皆さんに手伝っていただきました。また、七夕まつりの会場となった中央イベント広場での飾り付けは共愛学園前橋国際大学、前橋工科大学の学生さんに手伝っていただきました。そして、数多くの短冊や飾りを付けていただき豪華な七夕飾りが出来上がりました。期間中は、好天にも恵まれ人出も予想よりはるかに多く、たくさんの皆さんに七夕交流事業をご覧になっていただくとともに、短冊への願い事もたくさん書いていただきました。

今後も様々な事業を通じて、バーミングハム市と前橋市との交流がますます盛んになることを願っています。



第4回 MIA活動賞受賞者決まる！

MIA活動賞は、協会が主催する諸事業に積極的にボランティアとして従事し、他の会員の模範となる方を毎年各部会から推薦をいただき表彰するもの

です。今回は次の3名の方々が受賞されました。
おめでとうございます。



【総務部会】

中田照代さん：ネットワーク通信の編集から発送業務にご尽力いただくとともに語学講座や国際交流パーティーのボランティアとして幅広い分野で活躍されています。



【在住外国人支援部会】

馬 鉄さん：外国人相談窓口の中国語相談員を長年担当し親切で的確な対応をするとともに、中国語の翻訳業務も多数担当し協会に貢献しています。



【友好親善部会】

近藤きよ子さん：ホストファミリーグループで数多くの留学生の生活支援に尽力されるとともに様々な分野でボランティアとして活躍され他の会員の模範となっています。

MIA活動賞受賞者の声 ⑥

MIAと私

日本語講師 池田 智子

夫の転勤でこの前橋に来て30数年。知る人もいない所で何をしようかと思っていたとき、MIAの活動を目にして「日本語教室」を見学しました。それは留学生対象のものでした。一般の人を含め誰もが学習出来る教室を新たに開設しようというので、私も日本語ボランティアとして参加できることになりました。

一般に言われる「国語」ではなく外国の方が学ぶ「日本語」を勉強しました。

その後、主人がJICAシニアボランティアとして南米チリに1年行く事となり、私も随行。チリから帰国後、奮起して日本語教師の資格を取りました。MIAの活動が私の背中を押してくれたのか、JICAシニアボランティアとして中米ホンジュラスで2年間日本語を教えることが出来ました。

チリに行く前から、スペイン語に興味を持ち、MIAの「外国語講座」でスペイン語の学習をし、2019年9月オ

リンピック前の合宿で前橋市に来ていたコロンビア選手団の通訳のお手伝いが出来ました。

「日本語教室」を通じて知合った学習者にMIAの色々な活動を紹介して参加してもらいました。「日本語発表会」では日本での体験や自国の文化・習慣等についての発表、「国際理解講座」では自国の状況などの講演、「各国料理教室」では国の料理の実演・試食など。また、年末恒例の「国際交流パーティー」への参加と料理作り、民族衣装紹介などを頼み、彼等自身も色々な国の料理が食べられ、また多くの人との出会いを大変喜んでいました。

私自身MIAの各種活動に参加させて頂き、私の人生が豊かなものになりました。



■会員の加入状況（令和4年3月末日現在）

会員数 個人会員 417人
 団体会員 14団体 法人会員 53法人

■令和4年度会費の納入にご協力を!!

会費納入は今回同封の振込依頼書（群馬銀行、東和銀行）をご利用いただくと、振込料は無料となりますのでよろしくお願いいたします。また、事務局窓口に直接お持ちいただいてもお支払いいただけます。

前橋市在住の外国人（令和4年3月末日現在）

71か国	合計 6,905人
① ベトナム (1,373)	⑥ ブラジル (409)
② 中国 (1,083)	⑦ インドネシア (340)
③ フィリピン (1,000)	⑧ ミャンマー (271)
④ ネパール (735)	⑨ スリランカ (195)
⑤ 韓国 (413)	⑩ モンゴル (174)

ホームページをリニューアルしました。
是非ご覧ください。 <http://miajapan.sakura.ne.jp>